

令和4年度（2022年度）自治体職員協力交流事業  
協力交流研修員 研修報告書

2022 Local Government Officials Training Program in Japan  
Trainee Reports



一般財団法人 自治体国際化協会

Council of Local Authorities for International Relations

## はじめに

一般財団法人自治体国際化協会では総務省と連携し、海外の地方自治体の職員を日本の地方自治体で受け入れ、受入自治体を持つ様々なノウハウや技術等を習得させる「自治体職員協力交流事業」を支援しています。

平成8年度（1996年度）に創設され、いままでに38の国・地域から1,196名の研修員が本事業に参加されています。令和2～3年度（2020～2021年度）においては新型コロナウイルスによる渡航制約等を理由として開催を断念せざるを得ない状況でしたが、令和4年度（2022年度）に再開することができました。研修生6名中5名が渡航時期を当初予定の5月を延期して9月渡航とすることで研修期間について再検討したこと、来日後の日本語研修を集合研修ではなくオンライン化したこと、等の調整・工夫を経た上で実現したものになります。

本事業に参加された研修生の皆様は、現在では派遣元の海外自治体に復職し、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されています。

本報告書では、研修員の日本での本研修における奮闘ぶりや研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、全6事例を掲載する形で編集いたしました。

研修員派遣を検討される海外自治体や今後研修員の受け入れを検討されている日本の地方自治体において先行事例としてご参照いただけましたら大変幸甚でございます。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

一般財団法人自治体国際化協会  
交流支援部 経済交流課

## 令和4年度（2022年度）年度自治体職員協力交流事業スケジュール

### 令和4年度（2022）

#### 【5月派遣】1名

敦賀市（韓国）

5月24日（火） 5月派遣・協力交流研修員（1名・韓国）の来日

東京研修

5月25日（水） 都内視察、受入自治体へ移動  
日本語研修[実施せず]

専門研修

5月26日（木） 受入自治体における専門研修開始

研修員の帰国

11月 帰国

#### 【9月派遣】5名

富山県（ブラジル）・鳥取県（ジャマイカ）

笹岡市（マレーシア）・高知県（フィリピン）・高知市（インドネシア）

8月3日（水） 受入自治体担当者会議

9月29日（木） 9月派遣・協力交流研修員（5名）の来日

9月30日（金） 開会式[於：自治体国際化協会・東京本部]  
オリエンテーション（自己紹介、日本事情紹介等）  
受入自治体へ移動

10月3日（火） 日本語研修（オンライン）開始（8:50～12:00）

10月31日（水） 日本語研修終了、成果発表会

専門研修

10月3日（火）～ 受入自治体における専門研修開始

研修員の帰国

2月以降 研修期間に応じて順次帰国  
（高知市の研修生は2月、他4自治体の研修生は3月に帰国）

## 令和4年度（2022年度）取組一覧（6人/6団体）

### 5月渡航

No.	受入自治体		派遣元の海外自治体	友好・姉妹協定	選考方法
1	福井県	敦賀市	韓国江原道東海市	姉妹都市協定	独自

### 9月渡航

No.	受入自治体		派遣元の海外自治体	友好・姉妹協定	選考方法
1	富山県		ブラジル サンパウロ州	友好提携協定	独自
2	鳥取県		ジャマイカ	姉妹提携	独自
3	岡山県	笠岡市	マレーシア・コタバル市	友好握手都市	独自
4	高知県		フィリピン・ベンゲット州	姉妹県州提携	独自
5	高知県	高知市	インドネシア	姉妹都市提携	独自

※ 選考方法「独自」は受入自治体・派遣元の海外自治体間の合意に基づく申請を指す。自治体国際化協会による「斡旋」は該当なし。

## 令和4年度(2022)自治体職員協力交流事業(LGOTP)

### 報告書

---

#### 目 次

---

#### (福井県敦賀市 – 大韓民国東海市)

- ① 自治体報告書 「研修公務員 金相圭氏の受入について」
- ② 研修員報告書 「日本で暮らした6か月」

#### (富山県 – ブラジル サンパウロ州)

- ③ 自治体報告書 「令和4年度自治体職員協力交流事業を実施して」
- ④ 研修員報告書 「EDUCATION TRAINEE IN TOYAMA PREFECTURE」

#### (鳥取県 – ジャマイカ ウェストモアランド県)

- ⑤ 自治体報告書 「ジャマイカ・ウェストモアランド県との職員交流 ～鳥取県におけるLGOTP事業報告書～」
- ⑥ 研修員報告書 「2022 LGOTP Final Report」

#### (岡山県笠岡市 – マレーシア・コタバル市)

- ⑦ 自治体報告書 「pengalaman yang hebat～Awesome experience～」
- ⑧ 研修員報告書 「Infrastructure and General Management in Kasaoka City」

#### (高知県 – フィリピン共和国ベンケット州)

- ⑨ 自治体報告書 「牛の人工授精に関する畜産技術研修」
- ⑩ 研修員報告書 「ARTIFICIAL INSEMINATION AND PREGNANCY DIAGNOSIS IN CATTLE」

#### (高知県高知市 – インドネシア共和国スラバヤ市)

- ⑪ 自治体報告書 「自治体職員協力交流研修員の受け入れについて」
- ⑫ 研修員報告書 「Developing Sustainable Living, Future-Oriented City」

## 「研修公務員 金相圭氏の受入について」

自治体名	福井県敦賀市
氏名	金相圭
出身国	大韓民国
研修分野	一般行政
研修期間	6か月
主な研修先	敦賀市役所観光部

## 1 背景・目的

敦賀市の海外の姉妹都市は大韓民国の東海市、ロシア連邦のナホトカ市、中華人民共和国の台州市の三都市であり、大韓民国の東海市とは昭和56年（1981年）に姉妹都市盟約を締結しました。この間の交流の一つとして研修公務員の相互派遣・受入は、平成4年（1992年）に始まり、金相圭さんは18人目の研修公務員受入となります。研修公務員の相互派遣・受入は隔年で半年間、職員を相互に派遣し、他の交流事業ではなかなか実現できない長期的な滞在と体験を通して、地方行政の国際化・専門家への対応を促進することを目的としています。

## 2 研修の概要

敦賀市での研修では観光部をはじめ、本人の専門分野である土木関係部署を中心に、計7箇所の部署で研修を実施しました。観光部では主に観光交流課にて、市内観光施設等の視察を行ったほか、国内姉妹都市交流事業の行事にもご参加いただきました。都市整備部では、新幹線整備課、都市政策課にて、2024年に開業が予定されている北陸新幹線の駅舎の工事現場や、市が管理している公園の遊具の点検作業などを見学されました。金相圭氏が土木技師であったため、工事現場等の視察を通して、自国の技術や土木行政との比較ができたようでした。ほかにも、土木関連部署としては、水道部、建設部等での研修も行い、これまでも日本の土木技術を勉強されてきましたが、実際に現場を見ることで、改めて日々発展している分野であることを実感されたそうです。

また9月には、福井県国際交流協会主催の交流イベント「おちゃっとサロン韓国」にて、韓国や海外に関心のある一般市民向けの韓国文化講座の講師も務めていただきました。

印象に残った研修としては、市民生活部環境廃棄物対策課での勤務において、職員とともに市外出張に赴いたり、様々な現場に同行したりしたことや、産業経済部商工貿易振興課にて市内のイベントにスタッフとして参加し、地域の方々との交流や日本の文化を体験することができたことをあげていました。

研修後期に配属された教育委員会での研修では、市内小学校での交流授業を通じて小学生と触れ合いました。それまでも児童クラブ等で講座を実施した経験があったことから、日本語での発表も慣れた様子で、クイズ形式で韓国文化の紹介をしたり、韓国の伝統的な遊び道具を披露したりするなど、生徒たち

により興味を持って話を聞いてもらえるようご自身で工夫され、質疑応答の時間になると生徒からたくさん質問が出て大変盛り上がりました。

### 3 研修実施に当たって工夫、苦勞したこと

金相圭氏の研修は、LGOTP 事業の一斉入国時期よりも早い、5月からのスタートでした。当時は、新型コロナウイルス感染症対策で海外からの入国に際し様々な規制が設けられている状況だったため、政府の水際対策の動向を注視しながら研修の準備を進めなければなりませんでしたが、自治体国際化協会の方々のサポートにより、研修員の来日時はスムーズに入国ができ、予定通り研修を開始することができました。

金相圭氏は来日時にすでに日本語での日常会話がある程度可能だったことから、当初から生活に困惑する場面は少なかったようでしたが、研修員の日本語でのコミュニケーション力のさらなる向上と、市民と関わる機会を少しでも増やそうと、研修開始早々に市役所職員との交流会を企画しました。あわせて、市の広報誌に継続して研修員の記事を掲載することで、敦賀市が取り組む国際交流事業や研修員の存在をより多くの市民に周知することを心掛けました。そうしたところ、市内の複数の児童クラブから打診があり、児童クラブでの交流会の開催につながりました。子どもたちとの交流は研修員にとって貴重な体験になったようでした。

研修担当課としては、金相圭氏から毎月提出される月次報告書を通じて、各部署での研修内容や業務外での活動などを把握するとともに、日本での生活で困っていることがないかを確認しました。また、受入自治体としても研修員が研修の中で感じたことや自国との比較などを業務の参考とするため、報告書を研修実施部署にも共有するようにしていました。

### 4 成果・課題

金相圭氏は研修以前から日本語を勉強されてこられましたでしたが、独学で勉強されてきたこともあり、敦賀市での研修期間中に週3回受講していた日本語研修が日本語の文法の知識を深めることや、発音の上達において役に立ったようでした。マンツーマンでの丁寧な指導の成果もあり、研修終了時には日本語での会話の内容をほとんど理解できるレベルにまで向上し、リスニング力が特に身に付いたと本人も感じておられました。

また、金相圭氏は敦賀市で生活する中で、市役所の職員をはじめ、飲食店やスーパーなどどこへ行っても親切にしてもらえたということをよく話していました。研修応募時の応募動機の中で、親切で有名な日本の行政対応を学びたいとありましたので、その点については日々の研修や生活の中で十分実感されたようでした。また、今回、土木技師の方の受入ということで、研修部署については土木関連部署を中心としたことで、日本の土木技術を身近に感じ、ご自身の業務に直接活かせるような研修になったのではないかと思います。

さらに、研修期間中は金相圭氏が自ら職員に話しかけ、研修部署以外の職員とも積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られました。職員の中には韓国に興味を持つ者も多く、受入自治体側としても韓国や姉妹都市である

東海市について知るきっかけにもなり、双方にとって姉妹都市についての理解を深める良い機会となったと思います。

今回は LGOTP での一斉研修がなく、ほかの研修員の方々とともに、日本の行政や文化などを学ぶ機会がほとんどありませんでしたが、今後、LGOTP 事業が例年通り実施できるようになれば、研修員どうしの交流の機会が増え、日本での研修がより充実したものになると思います。金相圭氏については、来日が6回目ということもあり、日本についての知識をお持ちでしたが、受入自治体としても、研修部署での業務に留まらず、敦賀市全体の行政について研修員に伝える場を設けることでより日本の行政や敦賀市への知識を深めることにつながるのではないかと感じました。

金相圭氏には、今回の研修で得た経験を東海市での業務に活かしていただき、東海市と敦賀市との架け橋として今後も活躍されることを期待しています。



市内小学校での交流事業の様子



敦賀市長帰国報告あいさつ時



## 「日本で暮らした6か月」

氏 名 金 相 圭  
出 身 国 大韓民国  
受入自治体 福井県敦賀市  
研 修 先 敦賀市役所観光交流課



## 1. 本事業に応募した動機

成人して以来、自分なりに多様な経験をして生きてきたと思います。大学生の時、色々なアルバイトをしてみても多様な経験をしてきたと自負していますが、その中で心残りだったことをひとつあげるとすれば、海外経験と語学勉強でした。

旅行で日本を訪問したことがあり関心がありましたが、姉妹都市である敦賀市から国際交流で来た方が隣の席に座るようになり、韓国に関心と興味が多く、韓国語をかなり流暢に話す姿に語学勉強に対する気持ちが生まれ始めました。そして決定的に勉強を決心するようになったきっかけは、2017年に大阪に海外視察に行ってきたからで、姉妹都市の交流活動の中で英語より日本語の方が使えそうだと感じたので、本格的に勉強することにしました。それ以後、東海市に研修で来た敦賀市職員のおかげで日本語の勉強が面白くなり、それなりに忙しい業務の中であきらめずに勉強する敦賀市職員の姿に驚いたりもしました。

このようにそれなりに準備をしてから海外派遣研修を申請し、これ以上年を取ればなさそうな機会を得て運良く来たのでわくわくする気持ちと東海市庁職員として、公務員として、韓国人として頑張ろうという気持ちで来ることになりました。

## 2. 研修の概要

敦賀市役所では、7つの部署で研修を行いました。最初の研修部署である観光部での研修の時には、市民から海水浴場にごみが捨てられているという電話があり、現場に行きました。東海市と違う点のごみ箱が多くないので、普通、観光客はごみを持ち帰るのですが、指定場所でない所に誰かがごみを捨てるとそこに捨てられたりもします。現場に同行した担当職員が電話をした市民に親切に説明し、海水浴場の管理するところに電話をしてごみはすぐに処理されました。職員の親切に対応する姿が印象的でした。

また、6月には無人島「水島」の清掃活動に参加してきました。この日の行事には敦賀市の住民、学生、会社員などおよそ300人が参加しました。東海市でも同じような行事がありますが、大きく異なる点は、敦賀市の方が環境と関連した行事に学生たちの参加度が高い点でした。今回の行事の他にも環境課でごみ拾い大会のような行事もありました。学生たちの参加比重が少ない東海市とは対照的だったので、教育的な側面で東海市も学生たちの参加を拡大していく

のも良いと思いました。私も行事に参加してごみを拾ってみると韓国から来たごみが多かったので熱心に掃除をしました。

都市整備部での研修では、公園管理や都市計画などについて学びました。現在、敦賀市では2024年に開通する新幹線の駅舎新築工事が行われています。東京から新幹線は現在金沢というところまでつながっていますが、現在の工事区間は金沢から敦賀までで、工事が完成すれば東京まで直通で行けます。東京や福岡に行った時も新幹線を利用しましたが、速度は300キロでとても速いです。客車の中の施設は自由席、グリーン席、指定席に分かれていて喫煙室も備えていて本当に便利でした。韓国のKTX列車に比べて席も広く、新幹線の中でお弁当を食べるのもとても楽しかったです。初めて敦賀に着いた時、新幹線の駅の規模にかなり驚きましたが、6万の人口に比べてかなり大きな歴史を見ながら鉄道が発達した日本だからか、未来志向的にちゃんと作っている感じがしました。3階は新幹線の列車プラットフォーム、1階は一般列車、2階は商店街と事務室などに活用される計画で、駅の延長は新幹線の列車の長さに合わせて長さ（300メートル程度）だそうです。そしてプラットフォームの高さは日本で一番高いそうです。

また敦賀市でも新幹線開通に伴う人口流入や観光客誘致のための関連専門家（大学教授）の研究セミナーなど、お客さんを迎える準備に気を使っている様子で、これは今後韓国東海市でKTX東海駅を建設する際に現場にもう一度見学に来たいと思います。

敦賀市の道路河川課は東海市の建設課のようなところで、ほとんど土木職が勤めており、女性職員の割合が少なく、人手が少し足りないそうです。それに、8月に発生した災害でかなり忙しい雰囲気でした。また、建設現場を歩き回らなければならないのが韓国と似ていました。

韓国には教育庁が別にあります。日本では市役所内に教育庁の機能をする教育委員会があり、市の行事への学生の参加度が高いです。市の行事に学生たちが積極的に参加する姿が印象的だったので学生たちの教育的な側面でも役に立つと思いました。

### 3. 帰国後の展望

今回の研修を通じて誰にもできない経験をしました。旅行では絶対に感じられない経験を通じてその国の考え方をさらに理解することができ、その国の国民に最も基本的なサービスを提供する市役所で勤めながら几帳面に処理する方式もそばで見守ることができました。そしてその国の未来である子どもたちとの交流は本当に良い経験となりました。その中で、生きていく方法は少しずつ違いますが、私たちの生活の本質と大きな差はないと感じました。

すべての研修活動は市役所の職員の方々が好意的に接してくださったおかげでとても良い経験になりました。

韓国の方が良いところもありますが、子どもの頃から人に迷惑をかけないようにという教育を受けて育った日本人に比べて、韓国人の基本的な生活マナーやエチケットはまだまだだと思いましたが、こういうところは確かに韓国人が学ぶべきところだと思います。

最後に、長いようであっという間だった今回の研修期間は、私には挑戦そのものであり、すべてが私には重要な意味として残りました。面白いこともあったし大変なこともありましたが熱心に生活してきた私自身を褒めたいと思いますし、敦賀での生活をサポートしてくれた職員の方々に深く感謝申し上げます。まだ歴史的にも解決しなければならない宿題が多く、政治的にも解決しなければならない問題が多いですが、こうした国際交流を通じて両国がさらに発展していけるよう努力していきます。



現場視察の様子



建設中の新幹線駅舎にて



市役所の皆さんと

## 令和4年度自治体職員協力交流事業を実施して

自治体名：富山県  
研修員名：クマザワ ヴィニシウス リカロ  
派遣元自治体：ブラジル サンパウロ州  
研修分野：教育  
研修期間：5か月  
主な研修先：高岡市立野村小学校

### 1 背景・目的

本県では、海外からの技術研修員の受け入れを積極的に行っており、これまで、南米諸国、友好提携先等、その他開発途上国に対する技術協力事業の一環として技術研修員を受け入れ、さまざまな分野の技術移転により母国の経済開発に貢献しうる人材を養成するとともに、研修員と県民とのふれあいを通じて国際親善に寄与してきた。

一方で、近年の県内外国人住民の増加や定住化に伴い、日系ブラジル人をはじめとする多くの外国籍児童が、日本の小学校で言葉や文化の違いに戸惑い、悩みを抱えているという現状があり、多文化共生に配慮した教育環境の整備も課題となっているところである。

このため富山県では、平成21年度より、ブラジルサンパウロ州から教育経験のある人材を受け入れ、ブラジル人児童が多い小学校で、ポルトガル語やブラジル文化に配慮した学習支援を実施するとともに、外国籍児童の保護者に対して日本の教育制度等の理解促進に努めることを目的とした「多文化共生推進研修員受入事業」を実施している。

### 2 研修概要

日本の教育制度の理解、外国籍児童への学習支援

### 3 事業実施にあたって工夫、苦勞したこと

新型コロナウイルス感染症の影響で受入が難しい状況が続き、日程が例年と異なったため、研修内容を工夫した。県内視察として、例年に行っていない雪山体験も行うことができ、研修員からも好評であった。日本語学習がオンラインだったため、通信トラブル等があったものの、全体的にはスムーズに実施できた。

### 4 成果・課題

クマザワ研修員は、明るくまじめな性格で、日本語研修・専門研修ともに熱心に取り組み、研修以外の国際交流事業にも積極的に参加した。また、富山県内をはじめ、日本国内の様々な場所を訪れ、日本の文化や歴史についての知識を深めた。研修先の野村小学校では、主に外国人児童への指導や外国籍の保護者との連絡などを行い、本県の多文化共生の推進に貢献した。

本県独自で受け入れている他の2名の研修員との関係もとても良好で、定例のミーティング及び県内視察、書道体験等の各種イベントを通して親睦を深めていたようである。研修員には、帰国時に「とやま名誉友好大使」を委嘱したところであり、帰国後は、本県で

習得した技術を活かして活躍するとともに、本県とサンパウロ州との友好交流の架け橋としての役割を果たしてもらえよう願っている。

ブラジルサンパウロ州は、富山県にとって人的交流にとどまらず、経済、観光、環境等の各分野における本県の重要なカウンターパートであり、今後ますます関係は強いものになると感じている。クマザワ研修員も、今後、本県との橋渡し役として活躍してくれるものと期待している。



異文化理解ワークショップ（雪山体験）



研修修了式

④

## EDUCATION TRAINEE IN TOYAMA PREFECTURE

し めい  
氏 名

KumazawaViniciusRicaró

(Name)

しゅつ しん こく  
出 身 国

Federative Republic of Brazil

(Country)

うけいれじちたい  
受入自治体

Toyama Prefecture

(Host Institution)

けん しゅう さき  
研 修 先

Nomura Elementary School

(Training Facility)



### 1 ほんじぎょう おうぼ どうき 本事業に応募した動機

Contribute to the learning of foreign students. Enhance Japanese language studies. Observe successful teaching practices in Japan and apply them in Brazil.

### 2 けんしゅう がいよう 研修の概要

(Summary of Training)

(なにをまなび、なにを身に付けたかを含む。)

(What did you learn?)

I learned that it is very complicated for a foreign student who is in the last year of elementary school to enter a school with a language that is different from his or her own, because it takes time to learn the language and be able to follow the classes. Another important aspect to report is that the student who doesn't like the new country he has moved to or doesn't want to learn the language presents conflicts with his classmates because of the struggle of misunderstanding the communication. I was able to observe the pedagogical practices of some teachers and understand the school's dynamics and events.

### 3 きこくご てんぼう 帰国後の展望

(Plans upon returning to your home country)

(ほんじぎょう え せい か きこくご  
本事業で得た成果を帰国後どのように活かしたいか)

(How would you apply what you have learnt on the program?)

When I returned to Brazil, my superiors offered me a new position and I accepted. Now, I work at the Birigui Education Board, which is the body that guides and monitors all the schools in Birigui and the region. I am in the position of Geography Curriculum Specialist Teacher, that is, I will guide the Human Sciences teachers in this teaching region. I intend to socialize the good practices of Japanese teaching with these teachers and suggest that they apply them in their schools.

Time to study math



Teaching and accompanying the execution of math activities to the Filipino student

Studying is also funny



In some classes, after carrying out the activities, the students had time to choose a game to play. In this situation, this Brazilian student has read a book and the letters that he had difficulty to pronounce or words that he did not know their meaning, I stayed by his side to solve such doubts.

A memory I will take for the rest of my life



In my last week of internship, the teacher responsible for the foreigner students together with these students made a surprise farewell party for me.



## ジャマイカ・ウェストモアランド県との職員交流 ～鳥取県における LGOTP 事業報告書～

自治体名 鳥取県  
 研修員名 ブラック・ジャクソン マーシーン  
 出身国 ジャマイカ  
 研修分野 ①プロジェクト・マネジメント、持続可能な財政  
 ②税務管理  
 研修期間 6か月  
 主な研修先 鳥取県庁（国際観光誘客課、スポーツ課、財政課、市町村課、  
 行財政改革推進課、税務課、東部県税事務所、美術館整備局、  
 監査委員事務局、道路企画課、道路建設課等）  
 公益社団法人青年海外協力協会（JOCA 南部）、江府町

### 1 背景・目的

本県は、世界陸上（2007年大阪大会、2015年北京大会）の事前キャンプ地として、ジャマイカ選手団の受入れを行ったことを契機に、似通った自然・産業に注目したウェストモアランド県（以下、ウ県）から友好提携の提案を受け、2016年に「姉妹提携に関する協力覚書」を締結した。

本県の国際施策は「国内外の多様なチャンネル・分野での交流を通じた地域活性化の推進」であり、本事業を通じて、研修員に本県が持つノウハウを習得させるとともに、派遣元であるジャマイカ・ウ県との人的交流を深めることで、本県の国際交流施策への協力を得ることを期待している。

### 2 研修の概要

研修期間（全体）	令和4年9月29日～令和5年3月27日	
	時期	受入先等
研修期間 及び受入先	令和4年 9月	来日
	10月	日本語研修オリエンテーション 知事への着任挨拶
	11月	財政課、市町村課、国際観光誘客課、JOCA 南部 行財政改革推進課
	12月	税務課、美術館整備局
	令和5年 1月	鳥取環境大学「地方税」講座受講 スポーツ課、監査委員事務局、江府町
	2月	税務課、東部県税事務所、道路企画課、道路建設課
	3月	在日ジャマイカ大使館訪問、 研修報告会・知事報告、帰国

### 3 研修実施にあたっての工夫

ジャクソン研修員は、ウ県において財務部長を担当しており、管理職として、プロジェクト・マネジメント、持続可能な財政、税政を中心とした幅広い県政運営を研修したいと希望を持っておられた。

そこで、本県では希望いただいた分野のみに限らず、庁内各課に協力を仰ぎ幅広い

分野で研修を実施するとともに、意見交換等を実施したほか、分野によっては実地研修も実施し、県立美術館や岩美道路といった県内の主要プロジェクトのマネジメントを実地で学んでいただいた。

加えて、県内市町村（江府町）や外部組織（JOCA 南部）において、それぞれ1週間程度の研修を実施し、町政に係る研修、町民との交流事業等を経験いただいた。

ウ県は、日本では県より市町村に似た規模感であり、江府町での研修はジャクソン研修員にとっても非常に有意義なものとなった。

こうした多方面での研修を通じ、各分野においてジャマイカとの制度の違いなどを、ウ県での活用・運用の観点から積極的に学習されていた。



税務課との意見交換



県立美術館の建築現場視察



JOCA 南部でのジャマイカ紹介

#### 4 成果

本県における成果としては、ウ県との友好関係の強化があげられる。今回の受入れは、コロナ禍で多くの交流が中止となった中で、約3年ぶりの往来を伴う交流の再開となった。

時差やコロナの影響もあり、ウ県との連絡が取りづらい状況が続いていた中での来県となったジャクソン研修員には、現地との交流事業の調整等で大いに活躍いただいたほか、本県の実施する国際交流事業にも積極的に参加いただくことができた。

さらにジャクソン研修員はウ県財務部長という幹部級の職員ということもあり、ウ県にとって影響力の大きい職員と強い繋がりができたことは、本県としても非常に心強く、今後の交流の調整等に積極的に活かし、より強固な関係性を構築していきたい。

ジャクソン研修員は、日本の制度やDX化を学ぶことで、ウ県の課題解決や、行政効率化を実現させたいという思いを持って研修に取り組んでおられた。特に、業務効率の向上の為、財務記録や行政情報のデジタル化について、鳥取県で得た経験をウ県に還元したいと述べており、本県で学んだ経験を活かし、ウ県において大いに活躍していただきたい。



県内小学校でのジャマイカ紹介授業



鳥取空港でのお見送り

# Trainee Final Report

## 2022 LGOTP Final Report

**Mrs. Marcine Black-Jackson**

**Jamaica**

**Tottori Prefecture, Tottori Prefectural Government Office**

**KENCHO – Finance, Tax, Engineering divisions, JOCA- Nanbu Town, Kofu Town Municipal Office**



### 1. Reasons for applying for this program:

My application and subsequent participation in this program were to enhance my skills in local Finance and Project Management; not only theoretically, but, mainly in a practical manner. Additionally, and most importantly, to increase my cultural awareness thus, appreciating the beliefs, perceptions, and values of Japan and its people.

### 2. Summary of Training:

The training consisted of blended learning, commencing with an orientation exercise in Tokyo, highlighting the cultural behaviors to adapt, and what to expect in the online language training. Further training was provided in the form of lectures and observation; in the areas of Budget Preparation and Finance, Municipal Revenue, Public Private Partnership (PPP) and Public Finance Initiatives (PFI), Taxation, Auditing, Social Welfare, Planetary Health, Region Revitalisation, Road and Water System Maintenance, and Sports.

I observed that technology was widely utilized in the operations of the local authority consequently, translating to efficiency and effectiveness. The lessons learned, but not limited to, are:

- The disclosure of the budget to the public, as such the government and the public servants are held accountable for financial transactions done. Further, the budget process is green (paperless), making it very efficient and effective. Under the financial reform, UAV drones are utilized to detect infrastructural damages, thus, increasing the safety of staff, and reducing associated costs.



*Figure 1: reflects training in the budget process at the office of Tottori Municipal Government*

- The PPP and PFI are initiatives employed to reduce the financial burden on the government's purse. In addition, I was also informed and observed the steps undertaken in project management; inter alia contract management, the tools utilized, and the effect it has on completing a project successfully. Examples are the construction of housing solutions in Kofu Town and the Museum of Art in Kurayoshi.



*Figure 2: reflects training in Project Management & the use of PPP/PFI at the construction site of the Museum of Art*

- Timely auditing of the financial records according to Law, and/or Government policy is maintained to reduce financial risk.
- Taxation and Fundamental Tax Collection – for delinquent taxpayers: in extreme cases of non-compliance salaries are withheld and or bank accounts suspended, and;
- Social Welfare and Health Initiatives address an individual holistically; some of which are emotional and health welfare, dietary well-being, and financial and social well-being. Examples of these initiatives were observed at the wellness centers in Nanbu Cho and Kofu Town. Noted was the Tenrai Planetary Health initiative in Kofu Town. Observation not only involved social welfare, but Project management and sustainable financing of the project.



*Figure 3: reflects training in Project Management & Wellness in Nanbu.*

### **3. Application of what I learned on returning to my home country:**

- Have a dialogue with the National Government to seek authorization for the temporary suspension of bank accounts and salaries of delinquent taxpayers in extreme cases; empower the compliance officers and improve the government's ability to provide quality services. I have commenced the dialogue.
- Digitalization of financial records to increase efficiency and effectiveness. The Ministry of local government has begun the process of standardizing and digitalizing all local authorities, however, based on the observation I made in Japan, I intend to procure local accounting software in the interim to increase our efficiency; the team and I have implemented since my return and is in the process of improving the salary software for further efficiency, this will be fully implemented in May 2023.
- Introduction of the concept of Public-Private Partnerships to ease the financial burden on the Municipal's coffers. This dialogue has commenced,

and with team effort, a proposal is being developed for housing solutions as seen in Nanbu and Kofu Towns, this will be a lengthy process, but I am commencing and will pursue it.

- Ensure Community Participation: The Municipality is accountable for its service standards and delivery time. Disclosure of our budget to the public will increase accountability and transparency and reduce any likelihood of corruption. I am to point out that this is written in our laws but is not upheld. This initiative has been raised and in our next budget preparation exercise this will be done.
- I have also shared and introduced information on Disaster Management and Road Inventory as observed in training. I am anticipating assistance from the Road Maintenance Division at the Tottori Government, when the need arises.

## 「 pengalaman yang hebat～Awesome experience～」

自治体名	笠岡市
研修員名	モハマド イクラム ハフィズ ビン モハマド ルセリ
出身国	マレーシア
研修分野	一般行政
研修期間	6か月（来日時点からの月数）
主な研修先	協働のまちづくり課

### 1 背景・目的

笠岡市は1999年からマレーシア・コタバル市と友好握手都市縁組を締結し、民間企業を中心とした交流を行っている。2019年には交流20周年を迎え、記念事業を契機としたスポーツを通じた新たな交流の形も生まれている。

各種交流事業を通じて国際交流に参加する市民を増やし、市民の国際意識を醸成するとともに、国際交流事業を通して異文化に触れることで異なる価値観を理解し、外国人と共存できる多文化共生のまちづくりを推進している。

今後も民間交流を支援するため、また、民間に頼らずとも行政同士でも交流を継続できるよう両市の新たなパイプ役となれる人材を育成する必要性があり、本事業で今後の交流の柱となる人材の確保を期待している。

### 2 研修の概要

#### <主なスケジュール>

- ・令和4年9月29日 来日，トランジットモニターツアー（千葉県芝山町ほか）
- ・令和4年9月30日 東京都でのオリエンテーション
- ・令和4年10月3日～令和5年3月9日 笠岡市での実務研修
- ・令和5年3月10日 帰国

#### <主な研修内容>

- ・上下水道管の敷設，耐震化工事の現場視察，整備計画や工法・予算等のマネジメント実務，雨水ポンプ場・下水道終末処理場での処理フロー
- ・特定行政庁における開発申請業務
- ・道路維持管理業務や河川改修等建設担当部署におけるインフラ新設，改修，維持補修業務
- ・財政部局による笠岡市の予算編成フロー，入札業務
- ・市内各学校訪問
- ・国際交流協会主催の語学講座への参加（生徒，講師として）や公民館での出前講座の参加による市民との交流

- ・ゴミ焼却焼却場，リサイクルプラザにおけるゴミ処理業務

### 3 研修実施にあたって工夫、苦勞したこと

今回の研修生はコタバル市において、技術職として勤務しているため、笠岡市においても上下水道，建設部局や環境部局におけるゴミ処理施設での研修など、技術系の研修を中心に実施した。

中でも、インフラ整備の維持管理業務やゴミ処理問題はコタバル市において脆弱な部分であり、研修生もコタバル市の担当者と連絡を取りながら、帰国後参考に出来る部分を持ち帰る，あるいはリアルタイムで現地職員へ情報提供を行う（笠岡市として開示出来る部分のみ）など，則実践できる内容を盛り込んだ研修とした。リアルタイムでコタバル市の現状と比較しながらの研修であったため，笠岡市の職員にとっても異国の同業種の現場を知ることができる貴重な機会となった。

また，笠岡市全体の一般行政に触れてもらう機会をつくるため，全庁的に研修生を案内し，広く薄く業務内容を紹介したのちに，研修生本人が興味のある分野，コタバル市職員から視察希望のある部署を中心に業務に携われる機会を設定した。

受入れ担当課職員が基本的には同行・通訳もこなす方法を取ったが，技術分野の研修も多く，専門的知識が必要な業務の場合は意思の疎通に苦勞したが，担当課職員と直接アプリなどを使用して翻訳を依頼するなど各職場の職員との積極的な交流も図った。



### 4 成果・課題

まず，常に研修生と業務を行う受入担当課である当課職員にとっては，言語や生活様式の大きな違いを日々目の当たりにすることで，大変貴重な異文化理解の経験となった。今回の研修生はムスリムであり，食事の制限や日中のお祈り時間の確保など，日本人と大きく異なるライフスタイルの中で研修を実施しており，その文化を尊重しながら研修を進めていくという点で，多文化共生に対する意識が大きく醸成された。今後，笠岡市において多文化共生のまちづくりを担当課として推進していくうえでは貴重な経験となった。

今回の研修生は，研修に取り組む姿勢や知識を取得しようという意識が高く，笠岡市で学んだことを少しでもコタバル市へフィードバックしようという思いを常に持っており，業務によっては，オンラインでコタバル市とやり

取りをしながら研修を進める方法を取っていたため、当市の職員としても指導のモチベーションが高まり、研修内容がより有意義なものとなっていたと感じる。

ゴミの処理や道路、上下水道管のようなインフラが脆弱なコタバル市において、技術的先進国である日本の工法、施工にあたっての計画策定の方法、維持管理のマネジメント方法等を学び、帰国後にコタバル市にて実施する各種業務に活かしてくれることを期待している。

日本語の能力においても、日々の学習、職員との交流の中で培っていったコミュニケーションの成果もあり、様々なエピソードを交えた自己紹介は難なくこなせるようになり、また、私たち日本人の会話を聞いて所々の単語を理解し、ストーリーの大筋は自分の中で想像し、内容を理解できているといった場面が多々あり、本人も「もっと自分で日本語を使って表現できるようになれば、研修もより有意義でより深い理解が可能になる」と考えているようで、マレーシアに帰った後も日本語の勉強を続け、12月に開催される日本語検定を受検するという目標を立てている。研修生の日本語の理解が進むことで、今後の交流事業はこれまで以上に円滑に進むことが期待できる。

さらには、今回のLGOTPを機に笠岡市からコタバル市への職員派遣も決定し、令和5年度から派遣が開始される。両市を繋ぐパイプ役となる人材が増えることが切れ目のない友好関係の構築に大きく寄与すると考える。

今後も友好握手都市であるコタバル市と幅広い分野での交流を促進し、より強固な友好関係を築けるような交流事業を実施していきたい。





⑧

## (Infrastructure and General Management in Kasaoka City)

氏名 Mohamad Ikram Hafiz Bin Mohd Ruslii  
(Name)

出身国 Malaysia  
(Country)

受入自治体 Kasaoka City  
(Host Institution)

研修先 Collaborative Development Section  
(Training Facility)



### 1 本事業に応募した動機

(Reasons for applying for this program)

I am interested to learn about the city management and how Japanese Local Government tackle the problems arise in the City. The development of technologies is a contributing factor for a successful city, therefore learning the technologies that is currently used for city management local government there will also be my interest.

I would be interested to study on the work culture and the professional development of the the public servants in Japan which I believe it is a core factor in providing good service to the community.

Finally, Kasaoka and Kota Bharu had established Friendship Handshake City since 1999, hence I would like to continue and strengthen this relationship .

### 2 研修の概要

(Summary of Training)

In general, the training that I received involved infrastructure, management and facilities. The training was arranged based on department , event and Japanese Culture. In term of technical and infrastructure aspect, I have been involved in various technical departments such as Water and sewage department, Construction Department and City Planning Department.

I went to several construction sites and also the related facilities in Kasaoka.

The list of construction sites that I visited are:

1. The replacement of water distribution pipe
2. The Installation of Sewage Pipe
3. The installation of Earthquake mitigation system for sewage manhole.
4. The construction of Yoshidogawa Bridge
5. The construction of underground phone cable
6. The development of land by the private company.



Water Pipe Replacement Site



Manhole construction site

I learned a lot from the visits when I spoke with responsible engineers starting from construction planning, material receiving, execution and method of construction checking.

Other than visiting the construction sites, I was given a chance to learn on the water treatment facilities and water pumping facilities for flood mitigation. I was thought by the engineer on the overall process of water treatment.



Water Treatment Plant



Water Pump Station

Tender or bidding procedure is the first step in making sure the construction was done correctly by competent company. Thus, I learnt the

bidding procedure in Kasaoka which is organised by Finance Department. It is interesting to know the steps of the bidding procedure until the project is awarded.

The training will not be complete without involving with local communities. After a month learning Japanese with LGOTP、 I continue learning with Kasaoka International Exchange Association (KIEA). I was also given a chance to give short speech to junior high school students.



Giving a speech in junior high school at Kasaoka

Overall, the training that I received in Kasaoka is very broad and it was an interesting experience for me.

### - 3 きこくご てんぼう 帰国後の展望

(Plans upon returning to your home country)

Generally, I had a very interesting experience in Kasaoka City. I will bring all the knowledge that I gained here to Kota Bharu and spread it to the management by writing a full report so it can be discussed further.

As head of the Infrastructure Division, I will continue to study and research on good policies implemented in Kasaoka based on the suitabilities. Of course all good practices will be shared with all my colleagues.

To be able for Kota Bharu and Kasaoka to continue this friendship and share the know-how, I will try to further strengthen this city relationship. I realized language is the most challenging thing to maximize the idea exchanges , hence I am planning to improve my Japanese skills.

Lastly, I would like to thank all Kasaoka City employees for the wonderful experience and knowledge.

## 「 牛の人工授精に関する畜産技術研修 」

自治体名	高知県
研修員名	キタヤン レックス マリオネス
出身国	フィリピン共和国
研修分野	環境
研修期間	6か月
主な研修先	高知県畜産試験場

### 1 背景・目的

高知県では、昭和 50 年にフィリピン・ベンケット州と姉妹県州提携し、以降ほぼ毎年研修員を受け入れてきた。平成 17 年度からは自治体職員協力交流事業により、本県のノウハウや技術の習得を目的として研修員を受け入れている。

### 2 研修の概要

牛の人工授精のための妊娠鑑定・受精卵の生産・凍結・移植等の実習

### 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

- ・研修員の使用言語は英語のため、県から受入先に対してポケットクを貸与するとともに、スマホアプリツールを使用しながら研修を行ってもらった。
- ・受入先では、研修員の希望に沿うような様々な畜産技術に関する視察等も行ってもらった。
- ・クレアが実施したオンラインの日本語講習は、スケジュールや内容が研修員本人及び研修先の負担になることが多くストレスフルだった。



牛の人工授精の実習

### 4 成果・課題

コロナウイルス感染拡大を受け、研修開始時期が変更となり、急遽オンラインで行われた日本語の講習も研修先の畜産試験場での受講となり、準備や急な講座内容の追加等で受入先に負担をかけた。

研修員はとても意欲的で明るく真面目かつ器用で、すぐに研修先のスタッフと打ち解け、数々の新しい実習もすぐに経験者のように理解し実践し受入先を驚かせた。

本人も大変充実した研修を送った様子で、研修先での実技について自身の課題や新しく学んだ技術を帰国後どう活かすかなどいつも楽しそうに話していた。

今回研修した肉牛の人工授精にかかわる発情・妊娠鑑定や体内外での受精卵の生産、受精卵の凍結および移植等の技術普及が、フィリピンにおける肉牛の計画的生産及び恒常的な販売に繋がることを大いに期待する。

## ARTIFICIAL INSEMINATION AND PREGNANCY DIAGNOSIS IN CATTLE

Name : **REX MALIONES KITAYAN**  
Country : **REPUBLIC OF THE PHILIPPINES**  
Host Institution : **KOCHI-KEN**  
Training Facility : **KOCHI PREFECTURAL LIVESTOCK  
EXPERIMENTAL STATION**



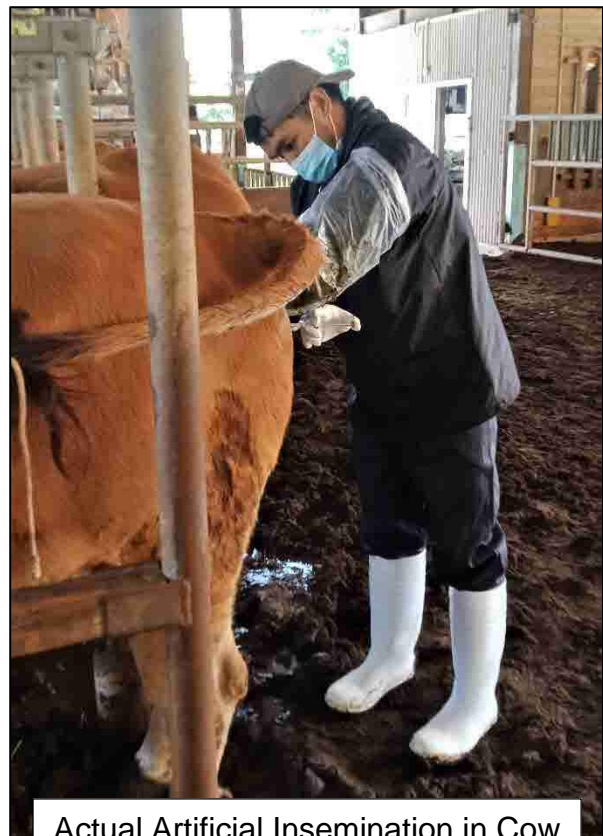
### Reason for applying:

In our office at the Benguet Provincial Veterinary Office, we only have one staff who knows how to do artificial insemination and pregnancy diagnosis for cattle and we are serving thirteen municipalities within Benguet. Likewise, on the farm that I'm assigned, natural breeding is practiced in cattle and it's difficult to figure out the ones that are pregnant and when are they going to give birth. These are the main reasons that I applied for this training program, and I was so blessed that I was given this opportunity to undergo this training.

I am so happy and I enjoy the very warm welcome and hospitality of the Japanese Government (Kochi-Ken), particularly from the staff of the Kochi International Association, Kochi Prefectural Livestock Experimental Station, and Culture and International Affairs Division Department of Culture, Community, and Sports. I also enjoyed learning Japanese culture and language even if it was difficult. At the same time, used this opportunity to enjoy life here in Japan to the fullest.

### Summary of Training:

We started training the basic of my specialized training step by step. These basic training are as follows: basic rope works, rectal examination, ovarian palpation, how to insert artificial insemination (A.I) gun, and how to prepare the cow before A.I and pregnancy diagnosis. Likewise, they also teach me how to prepare a medium to use for an embryo or egg culture. After getting confidence in my training, they allowed me to do actual artificial inseminations and pregnancy diagnoses.

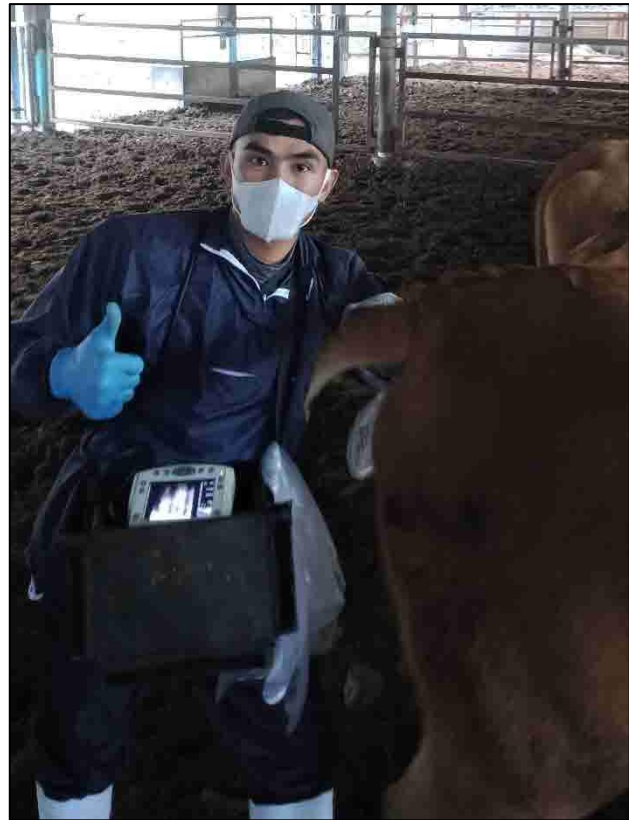


Actual Artificial Insemination in Cow

For the succeeding weeks, they showed me the highly technical activities on the farm, for example, washing of the uterine horn, ovum pick-up, embryo collection, embryo freezing, bull semen collection, and semen freezing. Luckily I was able to perform or practice 3 of the highly technical activities on the farm (uterine horn washing, ovum pick-up, and embryo freezing.)

Moreover, I was able to go with my trainers on the field assisting farmers with their cows and collecting some laboratory samples. In addition, I also had a chance to visit and train in a dairy farm at Yukigamine Ranch, Tosayamada, Kami City, and in Kochi Prefectural Central Livestock Hygiene Service Center at Tosa City.

Lastly, I was also given a chance to visit slaughterhouses and auction markets for cattle and observed how the meat and live



Pregnancy diagnosis using ultrasound

### **Plans upon returning home:**

The main reason that I was sent for this training is to gain new knowledge and technical skills from my Japanese trainers who are very supportive and who are very good at sharing new technologies relative to my training program. Upon returning home, I am very much willing and excited to share whatever experience that I will learn from this training purposely for the improvement and development of our Provincial Technology Demonstration Farm or Breeding Station in my hometown, Benguet Province. I believe that with the full support and assistance of my supervisor and head of offices in my province, we can re-echo or share my learnings with the Municipal Agriculture Offices or we will conduct similar training for some selected farmers.

Furthermore, upon returning home to my office, I am planning to have a meeting with our Governor together with my immediate supervisor and head of our office to plan a project proposal for the Construction of Bull Semen Processing Laboratory equipped with the equipment needed equipment, tools and paraphernalia for bull semen processing and present it to the Government of Kochi Prefecture and hoping that it would be put to a memorandum of agreement or as a joint project between the Provincial Government of Benguet and Kochi. Since the Province of Benguet has no such bull semen processing laboratory. Pursuance of the said joint project would be a symbol of a strong sisterhood and stable good relationship between the two provinces. Likewise, it would be a big boost to the province of Benguet in the improvement of the livestock industry toward food sufficiency and safety.



Actual ovum pick-up (OPU) to be used for vitro fertilization

## 「自治体職員協力交流研修員の受け入れについて」

自治体名	高知県 高知市
研修員名	ズルフィカル・ダエン・マジヤ
出身国	インドネシア共和国
研修分野	一般行政
研修期間	5か月
主な研修先	総務部総務課

### 1 背景・目的

本市では、平成9年にインドネシア・スラバヤ市と姉妹都市提携を行い、以降、文化・教育・経済等さまざまな分野で交流を続けている。

平成10年度から令和元年度まで毎年（ただし、平成27年度を除く）本事業を活用し、姉妹・友好都市提携を結ぶ海外の自治体との交流の一環として研修員の受け入れを行ってきた。令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となっていたが、3年ぶりに今年度は23人目となる研修員をスラバヤ市から受け入れ、行政研修を行った。

### 2 研修の概要

CLAIRによる東京オリエンテーション、オンライン日本語研修ののち、高知市内の日本語学校にて約1ヶ月半の間日本語研修を実施した。日本語学校では、同じインドネシアから来ている留学生と一緒に授業を受け、学校行事にも参加するなどお互い刺激しあえたようである。その後、行政研修として、総務部・商工観光部・環境部・防災対策部などで研修を行った。



地域の方と餅つきをする研修員

また、本市国際交流員と一緒に小学校でのイベントや地域行事などにも参加し、餅つきなどの日本文化に直接触れることができたほか、地域住民との交流も図ることができた。

### 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

研修員の学びたいことが、本人がスラバヤ市で担当している業務（中小・零細企業の支援、給食センターの管理）を中心に多岐に渡った。そこで、メリハリをつけるために行政研修では座学だけではなく、見学・体験を多く取り入れた。

ゴミ処理の研修では、実際に作業服に着替え、パッカー車に乗ってゴミ収集



体験を行った。収集後は清掃工場も見学し、高知市のゴミがどのように処理されているのかを、はじめから最後まで、多角的に学べるように工夫を行った。また、給食センターの研修では、説明を聞いたり、調理や片付け、搬入の見学をしたりするだけでなく、出来上がった給食を食べたり異物混入を防止するシステムを体験したりするなど、五感で学べるようにした。



ごみ収集体験をする研修員

座学の研修でも、高知市の説明だけをするのではなく、スラバヤ市の状況についてこちらから質問をしたりすることで、相互理解に努めた。研修員からもたくさんの質問があり、時間が足りなくなることが多かった。

また、本市にはインドネシア出身の CIR がいるため、これまで研修員の研修の通訳や資料の翻訳などはすべてその CIR に任せていたが、マジヤさんは英語が堪能であったため、アメリカ出身の CIR にも一部その業務を行ってもらい、インドネシア人 CIR の負担軽減を図ることができた。

マジヤさんは明るく積極的な性格で、研修にもとても前向きであったため、大きく苦勞した点はないが、強いて言うならば、時間に対する正確性など、日本の慣習的な文化を理解してもらった必要があった。

#### 4 成果・課題

本事業を通して、研修員と研修先担当者が業務に関する情報を共有することができた。また、研修の際に、高知市のことを一方的に説明するのではなく、スラバヤではどうなのかということはこちらからも質問しながら研修を進めることで、研修員を通してスラバヤ市行政への理解を深め、本市の国際化を進めることにつながられた。

今後の研修実施における課題としては、研修員からスラバヤ市の行政の現状を把握し、相互の情報・知識の共有により両市の業務の効率向上等に活かさればと考えている。

また、研修員には帰国後も本市での研修で修得した経験や知識を活かし、スラバヤ市での業務に取り組んでもらえたらと思う。両市をつなぐ架け橋として、交流を支えてもらい、今後の友好関係をさらに深められることを期待している。

# Local Government Officials Training Programme (LGOTP) 2022 Final Report

## Developing Sustainable Living, Future-Oriented City

Name : Zulfikar Daeng Maja  
Country : Indonesia  
City : Surabaya  
Host Institution : Kochi City  
Training Institution : General Affairs Division



World Peace and International Exchange Section

### 1. REASONS FOR APPLYING TO THIS PROGRAM

In recent years, Surabaya has become the 2<sup>nd</sup> largest city in Indonesia, the capital of East Java Province, and the central of urbanization by agglomeration of several regions surrounding Surabaya such as Gresik, Sidoarjo, Lamongan, Mojokerto, and Madura. This condition creates complex challenges for the Surabaya City Government to manage. Further continuous improvisation by collaborating and studying local areas or other countries' cultures could be a way to expand perception on how to tackle such challenges.

I work in the Surabaya City Government as a staff member of the Cooperative and Small Medium Enterprise Department. Our main task is to monitor, encourage, facilitate, and educate micro business owners in Surabaya. This could lead to increasing economic condition per capita and more job prospects in the future.

LGOTP 2022 was a great chance to learn about others' culture and increase my knowledge. By taking part in several activities, I had the opportunity to study and discuss the local government, Kochi City Government, make connections with the local people, and learn about Japanese culture. Hopefully what I have learned can be implemented in Surabaya by taking into account all supporting aspects, rules, and related stakeholders.

### 2. SUMMARY OF TRAINING a. General Training

I arrived in Tokyo on 28 September 2023. This is the first time LGOTP has been held in the 4<sup>th</sup> quarter of the year and only for 5 months until February 2023 due to a late start as a result of the recent pandemic of Covid-19. After the Opening Ceremony held by CLAIR on 29 September 2023, I went straight to Kochi City to begin my study. Early training started with learning Japanese via online and offline classes. I took my classes at ARC Academy and Ryoma Gakuen. During my classes, I took the liberty to explore and did observation to understand the culture and condition of the city and the people. In doing so, I managed to view the differences between Kochi and Surabaya. Unfortunately, I couldn't participate in the Yosakoi Festival because it's held annually in August. Fortunately, I was still able to participate in the Ryoma Culture Festival, harvest farm produce and learn to make mochi with the local people and children, explore famous spots in Kochi, go on a field trip with Kochi's sister city Fresno, go on a ski trip with Kochi Happy Family Indonesia, hike to Mt. Washio, visit temples, participate in New Year's festivities, help with the collaboration between Haruno Elementary School's Gamelan performance and Surabaya's Remo Dance, and go on a class tour with Ryoma Gakuen. I've seen Kochi City covered in snow, too. Every day there was something new to learn and it was exciting.

## **b. Specialized Training**

### **1. Local Government Training**

I learnt several topics while training in Kochi City Hall. The topics were city planning, city hall, employee development, and other topics. I learnt about how the new Kochi City Hall building was built to withstand the Nankai Earthquake which is predicted to happen every 100 years or so, and the chance of it happening in the next 30 years is concerning. This is also concerning for Kochi City planning, as they strive toward the ideal of a city that is organized and easy to live in. There are several areas that are not recommended to live in, such as industrial and disaster-prone areas. There is development in areas that are on high ground near the Aeon Mall district. Kochi City is also facing challenges from the declining birth rate and workforce aging. This is happening in all of Japan, so the government is highly concerned about this matter.

### **2. School Lunch Centre**

Kochi City has two sites for producing school (junior high school) lunches in Harigi and Nagahama. These two sites were built in 2018 on request of the School Lunch Committee. These two sites can produce a

maximum of 3000 lunch sets each, and have been producing 2700 each daily for 13 junior high schools. There are several steps and standards to produce each part of the lunch set. There is special treatment and designated lunch spaces for children with allergies. It is a really good experience to be directly involved when making the lunch sets.

### 3. Garbage Incineration Plant

Garbage disposal is one of the concerns for Kochi City. There is a monthly set schedule for different kinds of garbage such as combustibles, non-combustibles, plastic bottles and caps, glass, and iron-based materials. After each type of garbage is picked up, some of them go to the Incineration Plant to be burnt. This new plant was built in 2002 for 30,000,000 yen and has the capacity to burn 600 tons of garbage daily. The splendid mechanism of this incineration process is that the heat from garbage disposal is reused to power a turbine. This process can generate a maximum of 9,000 kW of clean electricity. It used to power the plant and the neighbouring area, but nowadays it's used to power the plant, Kochi City facilities, and Yonettu Kochi, a big swimming pool with heated water.



Garbage collection



Incineration Plant

### 4. Kochi Commerce and Tourism

There are several spots to go when visiting Kochi which are managed by Kochi Prefecture or Kochi City. Some examples are Kochi Castle (by Kochi Prefecture), Katsurahama Beach (by Kochi City), Mokuyo-ichi/Thursday and Sunday Market (by Kochi City). These spots offer a balance of beautiful scenery and the taste of mingling with local people. The related Division of Commerce and Tourism said that tourism in Kochi targets youth and young women and portrays Kochi as a relaxing and nostalgic place. There are 10 spots managed by Kochi City. Kochi City also offers benefits to homebased enterprises/entrepreneurs such as exhibitions and tours, facilitating training, and funding programs.



Thursday Market



Katsurahama Beach

### **3. PLANS UPON RETURNING TO HOME COUNTRY**

I am very grateful to receive this training program, as it was practical, exciting, and served as an access point to many opportunities. I hope it will inspire many others to participate in the next LGOTP and bring benefits to further improve both Kochi and Surabaya. I believe there are several good things that I've learnt that would bring about good deeds in Surabaya City if they are implemented in the future, such as the Lunch Centre and Waste/Garbage Incineration Plant. Developing these things will need further discussion and response in the future. As a government official, good public service and development should be prioritised.

I'd like to properly say thank you to the Kochi City Mayor, Mr. Seiya Okazaki, the Kochi City Hall, the kind people from General Affairs Division, World Peace and International Exchange Section, the CLAIR staff, the Ministry of Internal Affairs and Communication, the ARC teachers, the Ryoma Gakuen teachers and my colleagues, the LGOTP 2022 trainees, Kochi Happy Family Indonesia, and the Surabaya City Government, for all the teaching, help, guidance, and kind gestures I have received during my training. It is truly an honour to know all of these kind people and to participate in LGOTP 2022. Furthermore, I wish all of you good health, prosperity and success. May this good relationship between the sister cities of Surabaya and Kochi be lasting, better, and inspiring to others.